

今こそやろう減災式

あなたは、『防災』をひと言で言えますか？・・・そう聞かれても、すぐに答えることを難しく思う方が多いようです。私たち防災会では、次のように答えています。「自分の大切な人を守る」と。そう考えれば、自分の大切な人を守る為には、**自分が死んではいけない**意味合いが判ってくるのです。では、その為には何ができるのでしょうか？今年、自分の大切な人を守る為の「減災」をテーマとして考えていきます。

シリーズ「減災式をつくろう」

地震が発生した時、自分の身に「**危険が迫る**」とか「**危険にさらされる可能性が高い**」と、自分の命が危険だと感じる人は少ないと言われています。これは、人間が行動に移せないという基本的な人間の心理特性のひとつになっています。過去のグリーンだよりで掲載した、典型的な人間の行動「**非常ベルが鳴っても逃げない**」「**交通事故と宝くじ**」等の例があります。

簡単に言えば、**人間は自分が死んでしまうかもしれないことを前提に物事を考えることはできない**と言うことです。緊急地震速報、気象警報、避難勧告が発令されたときに「自分は死ぬかもしれない」と思う人はほとんどいないのです。

ところが地震想定の方訓練で、「今、震度7の揺れに襲われました。あなたは1分後に何をしていますか」と問われると、「机の下に隠れて揺れがおさまるのを待つ」「手近なもの

で頭を守る」と答える人が多い。これは、落下物や転倒物等から身を守るということでは正しい行動だと言えます。続いて「5分後、あなたは何をしていますか」の問いに、「建物から出て、安全なところへ避難している」。更に「10分後では・・・」と聞くと、「瓦礫の下に埋まっている人を救助している」と答える人が多いのです。ところが「私は瓦礫の下に埋まっている」とか「瓦礫に押しつぶされて、私は死んでいる」と答える人はほとんどいないと言われています。特に最近の日本人は、死を前提として考えることをしません。しかし、自分が守らなければならない、自分の

大切な人の存在がある場合、初めて「自分が死ぬ」ことを意識するようになります。それは自分自身が「**生命保険に入らなければ**」と感じた時に、「自分が死ぬこと」を初めて真摯に考えるようです。

思いませんか、「この人といつまでも一緒にいたい」「この人と同じ時をひと時も長く過ごしたい」「この人

を残して私が先に死んでしまった時」と考えた時、初めて「死」を意識し想像できるはず。生命保険に加入するそんな時であれば、「自分の死」そして「自分の命」を感じられるでしょう。**ところが、災害が自分の目の前で発生しても、「自分が死ぬかもしれない、今がその時だ」と、あなたは想像できますか？**

私たち日本人は、小さな頃から「**グラッときたら頭を守る**」「**グラッときたら机の下**」と頭の中しっかりと入っています。ところが、実際にグラッと揺れがきた時、自分の命に危険が迫っている「**今がまさにその時だ**」と思える人が非常に少ないのです。と言うよりも「今がその時だ」とは思いたくない人が多いし、思えないのです。それは、何かしらの理由付けをして「今がその時」と思わないようにしてしまうのでしょう。

なぜ、「今がその時だ」と思わないかと言えば、人間が持つ「**認知的不協和**」にあると考えられます。「認知的不協和」とは、人間が自身の中で矛盾する認知を同時に抱えた状態、またそのときに覚える不快感を表す社会心理学用語です。人間はこれを解消するために、自身の態度や行動を変更すると考えられています。有名な例として、「イソップ物語のキツネとすっぱい葡萄の話」が知られています。少し難しい話なので、簡単に言えば「**タバコを多く吸う人ほど、タバコは身体に害があるとは考えていない**」とか「**試験前に勉強をしなければならぬことは十分に判っている、けれど勉強していない**」と言うようなことがあります。

避難勧告が発令されたら逃げなければいけないことは、誰でも判っていることであり、誰もが知っていることです。ところが実際、いざと言うときに「今がその時」とは思えない。「頭では判っているが行動が伴わない」という状況がいずれの場合にも出てくるのです。

行動が伴わない状況が発生すると、人間が考える次の行動として、避難しない自分を正当化する理由を探しだそうとします。例えば、「**以前の避難勧告や警報が発令されたときに災害が来なかった**」あるいは、「**近所の人は逃げていなかった**」「**テレビから情報は流れてこなかった**」等と多くの理由付けをします。いや理由は何だっていいのです。要は、「逃げていない自分を正当化するに足りる理由」がひとつでも見つければ、逃げないことになるのです。言い換えれば、逃げないことの原因を見つける為に情報収集する。情報収集するがゆえになおさら避難をしない悪循環に陥るのです。災害如きで、私たちの想いを潰されてはいけません。

その為にも新しい備え「**減災式**」をつくってしまおう。今年も「**あなたの大切な人を守る防災活動**」にご協力ください。よろしくお願いいたします。

